



病院管理部医事課
課長

採用年月 2009年4月

係員として給与担当や予算編成担当
等、係長として病院の医事や法人全
体の労務担当を経験し、2024年4
月から現職

現在の担当業務

医事課は、病院収入の大部分を占める診療報酬の請求・収納事務や患者さんの受付対応等、病院の基盤システムである電子カルテの運用・保守を担う病院の屋台骨部門です。
名市大病院では、令和8年6月に救急災害医療センターの開棟、令和9年1月に新たな病院情報システムの導入という巨大プロジェクトが進行中で、当課はどちらにも広く深く関わっています。その部署の責任者として、重圧を感じつつも、やりがいをもって取り組んでいます。

思い出に残っている 業務上のエピソード

係長時代に、長年の課題とされてきた利用料金の改定や、市立病院の附属病院化に伴う勤務時間や給与制度の整理を経験させていただきました。そのどちらも前例のない業務でしたが、係や課の枠を超えて、上司や部下の方々が協力してくれたおかげで何とか乗り越えることができました。

名市大の魅力

エピソードに書いたように、名市大には組織の枠を超えて協力する風土があります。自分が困ったときに助けてくれる“仲間”がいることは大きな強みです。あと、人材育成にも積極的で、目的積立金（過去の決算での剰余金）を活用して、事務職員も含めて資格取得や研修参加を促しています。ヒト（職員）を大切にするのは、名市大の特徴です。

今後の目標

名市大には、特徴を持った6つの附属病院があります。医療は、社会には絶対必要なインフラです。その医療をより安定的に持続的に提供できるよう、今年度、病院経営・運営に関する外部の勉強会に参加させていただいています。そこで得た知識、経験、人脈を生かして、病院、大学の運営に貢献していきたいと思っています。

名市大職員を目指す 方へのメッセージ

大学の事務職員は、決して楽ではありません。少子化により大学間競争が激化していますし、報道されているように病院経営も大変厳しい状況です。
でも、そんな時だからこそ、前例に捕らわれない新たな発想が必要です。そして、名市大は、そうした新しい挑戦を受け入れてくれる懐の深い組織です。